

[参考書式]

一戸建て等(一般用・機構承認住宅(設計登録タイプ)用共通)

各工法共通

記入日: 令和 年 月 日

工事監理・施工状況報告書

検査機関名: 御中

申請者	氏名			
	住所	電話	()	
工事監理者	事務所名	級建築士事務所()	登録第	号
	資格・氏名	級建築士(大臣・知事)第		号
	所在地	電話	()	

(工事監理者がいない場合は、工事施工者が記名してください。)
(申請者が工事監理者と同じの場合は工事監理者欄の記名は不要です。)

私は、フラット35の竣工済特例を申請するに当たり、次の施工内容が設計図書等のとおりであることを報告します。

建物の名称									
建築場所									
確認済年月日・番号		(元号)	年	月	日	・(番号)	()		
検査済年月日・番号		(元号)	年	月	日	・(番号)	()		
工事概要	床面積	m ²		敷地面積	m ²				
	構造	☐ 木造	☐ 準耐火	☐ 耐火	階数	地上	階	地下	階
	戸建型式	☐ 一戸建て	☐ 連続建て	☐ 重ね建て	工法	☐ 在来木造	☐ 枠組壁工法	☐ その他	
	フラット35Sの希望	☐ 有	有の場合は、フラット35S用の「工事監理・施工状況報告書」を添付すること。ただし、省エネルギー性(※1)、耐久性・可変性(金利Aプラン)及びバリアフリー性の場合は不要です。					☐ 無	

項目		施工内容		写真の有無	適合証明検査機関確認欄
共通	断熱工事	屋根・天井(種類 厚さ mm)	壁(種類 厚さ mm)	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
		床(種類 厚さ mm)	防湿層()		
	土台(木造の場合)	樹種又は薬剤処理()		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
木造(耐久性)	床下防湿	☐ 厚さ()cmのコンクリート ☐ 厚さ()mmの防湿フィルム		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
	木部の防腐・防蟻措置	外壁の軸組(下地材を含む)のうち、地面から1m以内の部分 ☐ 耐久性の高い樹種() ☐ 薬剤処理() ☐ 外壁通気層構造 ☐ その他()		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
	基礎内周部の地盤の防蟻措置	☐ 防蟻措置が不要な地域(※2) ☐ 鉄筋コンクリート造のべた基礎 ☐ コンクリートが基礎内周部等に打設 ☐ 土壌処理		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
	浴室等の防水措置	(浴室) ☐ 浴室ユニット ☐ その他() (脱衣室) ☐ 防水上有効な仕上げ ☐ その他()		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
準耐火構造・耐火構造(※3)	屋根の裏側・屋根直下の天井	(防火被覆材の種類 厚さ mm)		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
	天井	(防火被覆材の種類 厚さ mm)		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
	梁	(防火被覆材の種類 厚さ mm)		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
	外壁	(室内側 防火被覆材の種類 厚さ mm)		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
		(屋外側 防火被覆材の種類 厚さ mm)			
	軒裏	(防火被覆材の種類 厚さ mm)		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
	内壁	(防火被覆材の種類 厚さ mm)		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
	柱	(防火被覆材の種類 厚さ mm)		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
	床	(防火被覆材の種類 厚さ mm)		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
	階段	(仕様 厚さ mm)		☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
その他			☐ 有	☐ 適 ☐ 不適	
その他				☐ 有	☐ 適 ☐ 不適

注) 申請者、工事監理者又は工事施工者は、太枠で囲われたところをチェック又は記入してください。

※1 「認定低炭素住宅であることを証する書類」、「性能向上計画認定住宅であることを証する書類」又は「札幌版次世代住宅であることを証する書類」を提出する場合に限ります。

※2 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県、富山県、石川県及び福井県

※3 準耐火構造・耐火構造の場合は対象事項に限り記入してください。

[参考書式]

一戸建て等(一般用・機構承認住宅(設計登録タイプ)用共通)
フラット35S
各工法共通

工事監理・施工状況報告書(省エネルギー性)

[第一面]

私は、フラット35の竣工済特例を申請するに当たり、次表の施工内容が設計図書等のとおりであることを報告します。

基準の概要	項目		施工内容	写真の有無	適合証明検査機関確認欄
フラット35S(金利5Bプラン)又はフラット35S(金利5Bプラン)の基準に適合している金利Aプラン	躯体の断熱性能等	断熱材の種類	屋根・天井(種類 厚さ mm)	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
			壁(種類 厚さ mm)	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
			床		
			・外気に接する部分(種類 厚さ mm)	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
			・その他の部分(種類 厚さ mm)		
	開口部の断熱性能等	窓等	仕様 ()	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
			仕様 ()		
		ドア	仕様 ()	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
			仕様 ()		
	開口部の日射遮蔽措置	ひさし・軒等	状態 ()	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
			状態 ()		
		付属部材	設置状態 ()	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
			設置状態 ()		
	結露発生の防止対策(断熱等性能等級による場合)	窓・ドア	仕様 ()	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
			仕様 ()		
		繊維系断熱材等を使用する場合	防湿層等の設置(☐ 屋根・天井 ☐ 壁 ☐ 床)	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
			通気層の設置	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
	躯体、開口部における省エネ措置	鉄筋コンクリート造等の住宅を内断熱工法により施工する場合	☐ 構造熱橋部の断熱補強		
			(断熱材の種類 厚さ mm)	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
			(補強範囲 mm)		
	躯体、開口部における省エネ措置	通風の利用	☐ 通風を確保する措置あり	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
		蓄熱の利用	☐ 蓄熱の利用あり 蓄熱材の種類 ()	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適
		床下換気	☐ 床下空間を経由して外気を導入する換気方式の利用あり	☐ 有	☐ 適 ☐ 不適

注) 申請者、工事監理者又は工事施工者は、太枠で囲われたところをチェック又は記入してください。

2022年10月

工事監理・施工状況報告書(省エネルギー性)

[第二面]

基準 の概 要	項目		施工内容	写真の 有無	適合証明検査 機関確認欄						
フラット3S（金利優待） 又はフラット3S（金利優待） の基準に適合していること。	設備の設置状況	暖冷房設備	【主たる居室】 暖房設備の仕様（ 型番（ 冷房設備の仕様（ 型番（	□ 有	□ 適 □ 不適						
			【その他の居室】 暖房設備の仕様（ 型番（ 冷房設備の仕様（ 型番（			□ 有	□ 適 □ 不適				
			換気設備					換気設備の仕様（ 型番（	□ 有	□ 適 □ 不適	
			給湯設備					給湯設備の仕様（ 型番（ □ 配管方式にヘッダー方式を採用（ □ 配管径13A以下 □ 節湯型水栓を採用 ・ 手元止水機能（ 場所： ・ 水優先吐水機能（ 場所： ・ 小流量吐水機能（ 場所： □ 高断熱浴槽を採用			□ 有
		照明		【主たる居室】 □ 全てLED □ 全て白熱灯なし □ 白熱灯あり （ □ 調光制御を採用 □ 多灯分散照明方式を採用 ----- 【その他居室】 □ 全てLED □ 全て白熱灯なし □ 白熱灯あり （ □ 調光制御を採用 ----- 【非居室】 □ 全てLED □ 全て白熱灯なし □ 白熱灯あり （ □ 人感センサーを採用	□ 有			□ 適 □ 不適			
				その他設備		□ 太陽光発電設備を採用 パワーコンディショナーの型番（ 太陽電池モジュールの型番（ 太陽電池アレイのシステム容量（ ）kW 太陽電池アレイの設置方式 （ □ 架台設置型 □ 屋根置き型 □ その他 パネル設置方位角（ ） パネル設置傾斜角（ ） ----- □ コージェネレーション設備を採用 型番（ ----- □ 上記以外の設備を採用 型番・仕様（	□ 有				

注) 申請者、工事監理者又は工事施工者は、太枠で囲われたところをチェック又は記入してください。

2022年10月